

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900034		
法人名	医療法人社団 恵慈会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム日下部		
所在地	千葉県香取市府馬3490-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku./12/index.php">http://www.kaigokensaku./12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7		
訪問調査日	平成27年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を意識した活動や行事に利用者様と職員と一緒に取り組んでいます。畑で収穫した野菜を使って調理した食事やおやつを食べたり、身頃の花々の花見や地元の祭り見学等、毎年恒例となっているものもあり、利用者様も楽しみにして下さっています。  
また毎年、市民文化祭に作品を出展するようになり、制作活動にも力を入れています。今年はシールを使った貼り絵やカラーサンドで描く砂絵等に挑戦しました。出品したものを見学に行くのも楽しみの一つとなっています。  
地域の仲間入りもさせて頂いているので、回覧板でホームの広報を回したり、地域行事に参加したりとより地元に着目した施設になれるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員で作った理念が、日々の介護支援にさりげなく活かされている。ケアの取り組みから自立した食事ができるまでに至った事例は、ケア計画のアセスメントがしっかりできており、その人の持てる力を発揮させたことにつながりました。だんだん高齢になり介護度が高くなっていますが全員が自立し完食できている姿に、利用者様の元気の元は食事と笑顔の多いことが読み取れました。また、近隣にはブドウ栽培やバラ園、道の駅など、懐かしいところがたくさんあり、楽しそうな外出や外食姿が印象的でした。ご家族の協力もよく、懐かしい我が家に泊りに出かけ、親縁者との交流を深めている。地域交流では近隣の6世帯と災害時の提携を結び、避難訓練に参加していただき、車いす操作、誘導など体験するなど、非常時に備えての取り組みは高く評価します。グループホームの生活の在り方を広く広報されることにも力を入れてください。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが				

1. 多岐岐口. 201	4. ほとんどいない
--------------	------------

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『家庭的な環境のもとで、日常生活への支援を通じて安心と尊厳のある生活を営むことができるようサービスを提供します』を理念とし、申し送り等で日々確認すると共に実践するためのアイデアを出し合っている。	理念は創立時に、職員全員で話し合い、どのような介護支援が必要か検討を重ね作成された。それを具現化するため、具体的な目標が掲げられている。職員は共通理解している。	書類やパンフレットなどに理念を記載し、利用者様のご家族や地域の方、関連機関の方々に施設の理解を促すためにも理念の記載の検討をしていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ仲間入りもし、回覧板での広報の回覧や地域行事へ参加している。小学校との交流は特に盛んで、お互いに行き来し親交を深めている。	年3~4回発行している「くさかべホーム通信」を町内会の回覧板を使い、情報発信している。小学校の運動会に参加や小学生の訪問もあり、小学校の資源回収にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症よろず相談窓口として相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、利用状況・行事・ヒヤリハット事例等の報告を行っている。また音楽療法やレクリエーション等は実際に実践現場を見ていただいている。メンバーの方々から貴重な意見をいただき、施設運営に活かしている。	2カ月ごとに、施設の運営状況やヒヤリハット・行事報告等をしている。家族の委員さんからも貴重な意見交換もされ学習の場となっている。レクリエーション場面を見てもらい、施設の理解につなげている。	委員の方々から、当施設の役割や支援内容などを広報していただき、施設の理解が広がることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の解釈や運用について随時相談や指導を受けたり、広報を持って訪問する等コミュニケーションを図っている。市町村主催の研修会等にも積極的に参加している。	市の担当者も参加し、ネットワーク会議、ケアマネ連絡会、地域包括サービス連絡会が定期的に開催されている。協議内容をサービスに活かし、空床情報を交換しあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行っていない。研修会や日々の申し送りでも身体拘束を行わないことを確認している。防犯・安全のため玄関は施錠しているが外出は自由であり、外出時には職員が付き添うようにしている。	拘束防止マニュアルが整備されている。研修担当者がインターネットで最新の情報を取り寄せ、具体的な事例を通して学習している。居室にはセンサーマットがあるので、直ぐに対処できるため拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護及び身体拘束廃止研修を受けた職員が内部研修会を開催したり、日々の申し送り等でも職員が共通意識を持てるようにしている。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び身体拘束廃止研修を受けた職員が内部研修会を開催する等、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時・改定時には十分な説明を行い、ご理解していただいてから契約している。契約解除時にも十分に説明を行い、ご理解・ご納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の要望や意見を個別に伺い、改善に取り組んでいる。また、運営推進会議にも出席していただき、外部者へ表せる機会を設けている。	相談箱が玄関に設置されている。家族から、自分ではできないことは自分でさせてほしいと、自立の思いが寄せられ、これらのことが実践されていることを会議の中で家族の立場から報告している。会議内容は職員が共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、理念や行事、シフト、ケアの仕方について、その都度意見や提案を聞いている。また、月に1回ミーティングを開催し、意見を述べる機会を設けている。	職員の意見は随時聞いている。月1回のミーティングでも聞いており、内部処理できない場合は6施設の責任者が出席する運営会議で協議し、運営に反映させている。	第三者評価の取り組みや、年度目標の考察なども、職員全員で取り組まれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の努力や実績、勤務状況を把握するよう人事考課を行っている。また、必要に応じて環境や条件の整備を行っている。年度末に管理者が職員と個別面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画を立て、実施している。また、外部研修へも積極的に参加している。管理者等は日々のケアの中で、職員の力量を把握し、個別に指導・助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び介護支援専門員は、市の地域密着型サービス連絡会やネットワーク会議等に参加している。職員も市主催の研修会に参加する等、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と十分に話す時間を設け、また入居前の居宅介護支援事業所からも情報を得ている。コミュニケーションを密にとり、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分に話す時間を設け、安心と信頼を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から話を聞き、必要があれば他のサービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のことやしきたりを教えていただいたり、家事作業を入居者の状況を見ながら共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、その都度近況を報告し、情報交換を行っている。毎月、利用者の近況報告書に、暮らしぶりがわかるよう写真を添えて郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問も受け入れ、来所時には本人の居室でゆっくりと過ごせるよう配慮している。また手紙には返事を書く支援をし、近況を見ていただけるよう写真も添付している。	家族の希望で、今は住んでいない家に帰り、親類の方も集まり交流している。知人の来所時には居室で歓談したり、教え子からのお手紙の支援や本人の墓参等も対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のコミュニケーションの中で、利用者同士の関係を把握し、必要に応じて見守り・声掛けを実施している。また、座席や外出のグループ分け等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居された方には、また介護サービスが必要になった際は相談や支援を行う旨を伝え、入院先へ面会もしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、お一人おひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。	入所時には本人や家族と話し合った情報は職員も共有し支援している。高齢化や介護度が進み、暮らしの意向や希望も少なくなってきたが、季節ごとに行事を促し楽しんでいただいている。	無理なく、さりげなく言葉かけや支援がされていました。継続を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から話を聞くとともに、入居前の居宅介護支援事業所から情報を得て、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録、申し送りで現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎の担当職員が毎月モニタリングをすると共に、計画見直しの際のアセスメントは24時間の行動記録を行い、全職員が携わるようにしている。計画変更時にはそのモニタリングやケース記録を基に、カンファレンスを開催し、介護計画を立てている。	24時間モニタリングを3日ほど取り、生活のパターンに合わせた計画や工夫が追加されている。アセスメントが適正に介護支援に活かされています。	事実をしっかりと把握したアセスメントをこれからも続けてください。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に暮らしの様子や気づきを記入し、職員はそれを確認している。ケア方法の変更や工夫については随時申し送りや申し送りノートで共有している。また変更点は毎月のミーティングで確認し、個別ケア記録へ記載することで、ケア方法の統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の利用者の状態や状況に合わせて柔軟に対応している。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源は把握していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関に受診している。協力病院への受診は看護職員が付き添い、その他の病院への付き添いは家族が行っている。家族の付き添いが困難な場合は職員が行っている。	協力病院の受診は母体の施設であり看護師が付き添い、かかりつけ医の受診は基本的にはご家族に依頼している。困難な場合は看護師が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関りの中での気づきや状態の変化等は看護職員に報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、当日中に病院へ行き情報交換に努めている。入院中も面会時や電話で、ソーシャルワーカー等病院関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応に関する指針を示し説明・同意していただくと共に、終末期に関するアンケートもお答えいただいている。また、研修会を開催し、看取りに関する内部研修も行っている。	終末期の研修や報告会、マニュアルや承諾書類など整備されている。希望者が数名おりますが、ご家族とも十分に話し合われている。	事例経験はないので、想定した話し合いや、お互いの癒しや振り返りを組織として取り組まれることを願います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法について、研修会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成26年12月に消防署立会いの下、夜間を想定した非難・消火・通報訓練を実施した。平成27年6月にも想定を変えて開催した。また、地域住民との間に非常災害時における連携に関する協定を結ぶと共に、近隣住民に協力を求め、非常災害時等の緊急連絡網を作成している。	毎年2回想定した訓練が行われている。地域の方や消防署の方も参加し、場所を変えて、夜間を想定した訓練も行っている。安否確認・出口を変えた訓練も行っている。備蓄は3日分確保できている。地域住民との間に災害時の協定を結び、避難訓練では車いすの押し方など演習している。	

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った声掛けや対応を行っている。	言葉かけは丁寧で穏やかに話をしている。所内研修でマナー研修も行い、人格の尊重、プライバシーを損なわないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝えやすいように、日頃の関りの中で、コミュニケーションを密にとっている。出来るだけ多くの選択肢を用意し、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、その日の状態や気分、希望合わせて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から使っている化粧品や、整髪剤を使って身だしなみを整えられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は調理職員が行っている。また、その日畑で採れた野菜を使って副菜の1品を利用者と相談しながら作ったり、定期的におやつ作りを一緒に行っている。	一人一人にあった、スプーンの持つ太さが工夫され、全員が自立で完食しておりました。噛む力もあり、小学生訪問時にはおやつ作りも楽しみにし一緒に行っている。	お口体操、声のでることは食にもつながるので大事な取り組みとして継続してください。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、把握している。摂取不良・体調不良時等は形態やメニューの変更、また声掛けの工夫等で摂取量の向上に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施の声掛けと誘導、援助を行っている。また、研修会を開催し職員の意識向上を図るとともに、援助方法について確認している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行っている。	排泄一覧表は職員が支援しながらでも見られるところにあり、排泄パターンを把握し声掛けをしている。その人にあったナプキンの使用を取り組み自立援助を進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳の提供や運動等、出来るだけ自然排便出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や回数、入浴日等決まっているが、本人の希望や体調等に合わせて柔軟に対応している。	体調や本人の希望に合わせて、週2～3回の入浴を行っている。6割の方が機械浴を利用し、危険防止に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や希望に添うとともに、身体の状態等を見ながら、休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が管理を行い、内服の目的や副作用、用法・用量について介護職員に申し送りを行っている。ケース記録に薬剤情報提供書を添付し、いつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、調理等を職員と一緒にしている。音楽・園芸療法に取り組み、入居者も楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて散歩やテラスでの日光浴を行ったり、季節に合わせて外出行事も行っている。	日当たりのよいテラスや近所に出かけることもあるが、季節に合わせてバラ園・ウブドウ狩りなどに出かけている。個別の希望は家族と協力して実施している。	笑顔の写真がたくさんありました。共有スペースにも貼ると話題性が出るのではないのでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で金銭管理を行っているが、本人の希望があれば、お小遣い程度の金額を所持していただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、家族や友人に電話をかけられるよう支援している。また、手紙の返事を書く支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保持している。また、季節に合わせた飾り等を利用者と一緒に作り飾ったり、テラスや玄関には季節ごとの花を植えている。	共用スペースには、一休みできる大きな畳の空間があり、必要時はカーテン・掘こたつなど、多様に使用でき、広々とした空間である。日当たりもよく天井も高く開放的である。	利用者様の作品などの展示や外出時の写真など掲示されていると、思い出し、振り返り等できると思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファーやテーブル等でテレビを観たり、お話をしたりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に声をかけているが、馴染みの物を持ち込んでいる入居者はあまり居ない。	居室は衛生面を考えフローリング床となっている。希望者には畳のお部屋を提供している。クローゼットに衣類が整理がされ居室の転倒防止のため、床には小物の荷物がなく整理されている。壁には家族の写真やお手紙が掲示されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、老化及び居室にも手摺りが設置され、ドアは横開きで、入居者が安全に移動出来るようになっている。		